

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成23年11月17日(2011.11.17)

【公開番号】特開2009-132681(P2009-132681A)

【公開日】平成21年6月18日(2009.6.18)

【年通号数】公開・登録公報2009-024

【出願番号】特願2008-264385(P2008-264385)

【国際特許分類】

A 01 N	43/10	(2006.01)
A 01 N	43/40	(2006.01)
A 01 N	43/653	(2006.01)
A 01 N	43/54	(2006.01)
A 01 N	37/50	(2006.01)
A 01 N	43/28	(2006.01)
A 01 N	43/36	(2006.01)
A 01 N	35/04	(2006.01)
A 01 N	43/84	(2006.01)
A 01 N	57/10	(2006.01)
A 01 N	37/24	(2006.01)
A 01 N	43/42	(2006.01)
A 01 N	43/90	(2006.01)
A 01 N	39/02	(2006.01)
A 01 N	59/02	(2006.01)
A 01 N	43/16	(2006.01)
A 01 N	43/50	(2006.01)
A 01 N	47/04	(2006.01)
A 01 N	55/02	(2006.01)
A 01 N	37/34	(2006.01)
A 01 N	47/38	(2006.01)
A 01 N	47/34	(2006.01)
A 01 N	33/24	(2006.01)
A 01 N	59/20	(2006.01)
A 01 N	63/00	(2006.01)
A 01 N	47/44	(2006.01)
A 01 N	43/80	(2006.01)
A 01 N	47/24	(2006.01)
A 01 N	59/08	(2006.01)
A 01 N	57/14	(2006.01)
A 01 N	47/12	(2006.01)
A 01 N	37/26	(2006.01)
A 01 P	3/00	(2006.01)

【F I】

A 01 N	43/10	B
A 01 N	43/40	1 0 1 D
A 01 N	43/653	C
A 01 N	43/653	G
A 01 N	43/653	B
A 01 N	43/54	D
A 01 N	37/50	

A 0 1 N	43/28	
A 0 1 N	43/36	A
A 0 1 N	35/04	
A 0 1 N	43/40	1 0 1 K
A 0 1 N	43/84	1 0 1
A 0 1 N	57/10	F
A 0 1 N	37/24	1 0 1
A 0 1 N	43/42	1 0 1
A 0 1 N	43/90	1 0 4
A 0 1 N	39/02	B
A 0 1 N	59/02	
A 0 1 N	43/16	A
A 0 1 N	43/50	M
A 0 1 N	43/54	A
A 0 1 N	47/04	1 0 1
A 0 1 N	43/40	1 0 1 J
A 0 1 N	55/02	G
A 0 1 N	37/34	1 0 4
A 0 1 N	43/36	C
A 0 1 N	47/38	B
A 0 1 N	47/34	A
A 0 1 N	33/24	1 0 1
A 0 1 N	59/20	Z
A 0 1 N	47/34	D
A 0 1 N	63/00	E
A 0 1 N	47/44	
A 0 1 N	43/50	K
A 0 1 N	43/80	1 0 1
A 0 1 N	47/24	G
A 0 1 N	59/08	Z
A 0 1 N	57/14	C
A 0 1 N	47/12	Z
A 0 1 N	47/12	1 0 2
A 0 1 N	37/26	
A 0 1 N	43/54	G
A 0 1 N	43/90	1 0 6
A 0 1 N	43/40	1 0 1 B
A 0 1 P	3/00	

【手続補正書】

【提出日】平成23年10月3日(2011.10.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(a)式(1)：

【化1】



[式中、BはYで置換されてもよい複素環基であり；R¹及びR²は各々独立にC₁₋₁₂アルキルであり；Xはハロゲン、C₁₋₁₂アルキル又はC₁₋₁₂アルコキシであり；Yはハロゲン、C₁₋₁₂アルキル又はC₁₋₁₂ハロアルキルであり；nは0～5の整数である]で表されるカルボン酸アミド誘導体又はその塩と、(b)グアニジン系化合物、アゾール系化合物、アニリノピリミジン系化合物、トリアゾロピリミジン系化合物、ストロビルリン系化合物、N-ハロゲノチオアルキル系化合物、ピリジナミン系化合物、重炭酸塩、無機硫黄系化合物、ジチオカーバメート系化合物、有機塩素系化合物、ジカルボキシミド系化合物、アミン系化合物、フェニルピロール系化合物、ベンゾフェノン系化合物、ビペリジン系化合物、ジニトロベンゼン系化合物、モルフォリン系化合物、シアノアセトアミド系化合物、亜リン酸系化合物、有機リン系化合物、カルボキサミド系化合物、キノリン系化合物、銅系化合物、カーバメート系化合物、抗生物質、オキシムエーテル系化合物、4-キノリノール誘導体化合物、シアノメチレン系化合物、キナゾリノン系化合物及びベンゾイルピリジン系化合物から成る群から選択された少なくとも1種の殺菌性化合物の相乗有効量を含有する殺菌性組成物。

【請求項2】

BがYで置換されてもよい5員又は6員複素環基である請求項1に記載の組成物。

【請求項3】

Bの複素環基が、窒素原子、硫黄原子及び酸素原子からなる群から選択された少なくとも1種の原子を1～2個含有するものである請求項2に記載の組成物。

【請求項4】

Bの複素環基がピリジル、チエニル又はピラゾリルである請求項2に記載の組成物。

【請求項5】

Bが3-トリフルオロメチル-2-ピリジル、3-メチル-2-チエニル又は1-メチル-3-トリフルオロメチル-4-ピラゾリルである請求項1に記載の組成物。

【請求項6】

式(I)の化合物が、N-[(3', 4'-ジクロロ-1,1-ジメチル) フェナシル]-3-トリフルオロメチル-2-ピリジンカルボキサミド、N-[(3', 4'-ジクロロ-1,1-ジメチル) フェナシル]-3-メチル-2-チオフェンカルボキサミド、N-[(3', 4'-ジクロロ-1,1-ジメチル) フェナシル]-1-メチル-3-トリフルオロメチル-4-ピラゾールカルボキサミド、N-[[2'-メチル-4'-(2-プロピルオキシ)-1,1-ジメチル] フェナシル]-3-トリフルオロメチル-2-ピリジンカルボキサミド、N-[[2'-メチル-4'-(2-プロピルオキシ)-1,1-ジメチル] フェナシル]-3-メチル-2-チオフェンカルボキサミド、N-[[2'-メチル-4'-(2-プロピルオキシ)-1,1-ジメチル] フェナシル]-1-メチル-3-トリフルオロメチル-4-ピラゾールカルボキサミド、N-[[4'-(2-プロピルオキシ)-1,1-ジメチル] フェナシル]-3-メチル-2-チオフェンカルボキサミド、N-[[4'-(2-プロピルオキシ)-1,1-ジメチル] フェナシル]-1-メチル-3-トリフルオロメチル-4-ピラゾールカルボキサミド、N-[[2'-メチル-4'-(2-ペンチルオキシ)-1,1-ジメチル] フェナシル]-3-トリフルオロメチル-2-ピリジンカルボキサミド及びN-[[4'-(2-ペンチルオキシ)-1,1-ジメチル] フェナシル]-3-トリフルオロメチル-2-ピリジンカルボキサミドから成る群から選択された少なくとも1種の化合物である請求項1に記載の組成物。

【請求項7】

(b)の殺菌性化合物が、トリアジメホン、トリフルミゾール、ペンコナゾール、フルシ

ラゾール、マイクロブタニル、シプロコナゾール、テブコナゾール、ヘキサコナゾール、N-プロピル-N-[2-(2,4,6-トリクロロフェノキシ)エチル]イミダゾール-1-カルボキサミド、メトコナゾール、エポキシコナゾール、プロチオコナゾール、トリアジメノール、ジフェノコナゾール、フルキンコナゾール、エニリコナゾール、イマザリル、ビテルタノール、エタコナゾール、プロピコナゾール、ファーコナゾールシス、テトラコナゾール、オキスボコナゾールフマル酸塩、フルトリアホール、フェンブコナゾール、ブロムコナゾール、ジニコナゾール、トリシクラゾール、プロベナゾール、シメコナゾール、ペント-4-エニル(2RS)-2-[フルフリル(イミダゾール-1-イルカルボニル)アミノ]ブチレート、イブコナゾール、イミベンコナゾール、シアゾファミド、ヒメキサゾール、アミスルブロム、フェリアゾール、メパニピリム、ピリメサニル、シプロジニル、フェリムゾン、5-クロロ-7-(4-メチルピペリジン-1-イル)-6-(2,4,6-トリフルオロフェニル)-[1,2,4]トリアゾロ[1,5-a]ピリミジン、アゾキシストロビン、クレソキシムメチル、メトミノストロビン、トリフロキシストロビン、ピコキシストロビン、(2E)-2-(メトキシイミノ)-2-[2-[(3E,5E,6E)-5-(メトキシイミノ)-4,6-ジメチル-2,8-ジオキサ-3,7-ジアザノナ-3,6-ジエン-1-イル]フェニル]-N-メチルアセタミド、ジモキシストロビン、ピラクロストロビン、フルオキサストロビン、メチル 3-メトキシ-2-[2-(((1-メチル-3-(4'-クロロフェニル)-2-プロペニリデン)アミノ)オキシ)-メチル]フェニル]プロペノエート、キャプタン、キャプタホル、フォルペット、フルアジナム、重炭酸ナトリウム、重炭酸カリウム、硫黄、多硫化石灰、硫酸亜鉛、マンゼブ、マンネブ、ジネブ、ポリカーバメート、メチラム、プロピネブ、チラム、クロロタロニル、フサライト、キントゼン、プロシミドン、イプロジオン、ビンクロゾリン、スピロキサミン、ジクロフルアニド、フルジオキソニル、フェンピクロニル、メトラフェノン、フェンプロピジン、メブチルジノキヤップ、フェンプロピモルフ、トリデモルフ、ドデモルフ、ジメトモルフ、フルモルフ、シモキサニル、亜リン酸、亜リン酸ナトリウム、亜リン酸カリウム、亜リン酸カルシウム、ホセチルアルミニウム、トルク口ホスメチル、S - ベンジル O , O - ジイソプロピルホスホロチオエート、O - エチル S , S - ジフェニルホスホロジチオエート、アルミニウムエチルハイドロゲンホスホネート、エジフェンホス、イブロベンホス、フルトラニル、3,4-ジクロロ-2'-シアノ-1,2-チアゾール-5-カルボキシアニリド、メプロニル、ゾキサミド、チアジニル、カルボキシン、オキシカルボキシン、チフルザミド、フラメトビル、ベンチオピラド、ボスカリド、N-(3',4'-ジクロロ-5-フルオロビフェニル-2-イル)-3-(ジフルオロメチル)-1-メチルピラゾール-4-カルボキサミド、N-[2-[3-クロロ-5-(トリフルオロメチル)-2-ピリジル]エチル]- , , -トリフルオロ-o-トルアミド、3-(ジフルオロメチル)-1-メチル-N-[(1RS,4SR,9R S)-1,2,3,4-テトラヒドロ-9-イソプロピル-1,4-メタノナフタレン-5-イル]ピラゾール-4-カルボキサミドと3-(ジフルオロメチル)-1-メチル-N-[(1RS,4SR,9SR)-1,2,3,4-テトラヒドロ-9-イソプロピル-1,4-メタノナフタレン-5-イル]ピラゾール-4-カルボキサミドの混合物、シルチオファム、フェンヘキサミド、キノキシフェン、塩基性塩化銅、水酸化第二銅、塩基性硫酸銅、ボルドー液、有機銅、チオファネートメチル、ベノミル、カーベンダジム、チアベンダゾール、ピリベンカルブ、ジエトフェンカルブ、プロパモカルブ塩酸塩、イプロバリカルブ、メチル [S-(R,S)]-3-[(N-イソプロポキシカルボニルバリニル)アミノ]-3-(4-クロロフェニル)プロパノエート、ベンチアバリカルブ-イソプロビル、ポリオキシン、バリダマイシン、カスガマイシン、イミノクタジン、ドディン、シフルフェナミド、2,3-ジメチル-6-t-ブチル-8-フルオロ-4-アセチルキノリン、2-(2-フルオロ-5-(トリフルオロメチル)フェニルチオ)-2-(3-(2-メトキシフェニル)チアゾリジン-2-リデン)アセトニトリル、プロキンアジド、4-(2,3,4-トリメトキシ-6-メチルベンゾイル)-2,5-ジクロロ-3-トリフルオロメチルピリジン、4 -(2,3,4 - トリメトキシ-6-メチルベンゾイル)-2-クロロ-3-トリフルオロメチル-5-メトキシピリジン、3-(2,3,4-トリメトキシ-6-メチルベンゾイル)-5-ブロモ-4-クロロ-2-メトキシピリジン及び3 -(2,3,4 - トリメトキシ-6-メチルベンゾイル)-5-クロロ-2-メトキシ-4-メチルピリジンから成る群から選択された少なくとも1種である請求項1に記載の組成物。

【請求項 8】

(b)の殺菌性化合物が、トリフルミゾール、マイクロブタニル、シプロコナゾール、テブコナゾール、ヘキサコナゾール、N-プロピル-N-[2-(2,4,6-トリクロロフェノキシ)エチル]イミダゾール-1-カルボキサミド、メトコナゾール、エポキシコナゾール、プロチオコナゾール、ジフェノコナゾール、テトラコナゾール、トリシクラゾール、オキスピコナゾールフマル酸塩、シアゾファミド、ヒメキサゾール、メパニピリム、ピリメサニル、シプロジニル、フェリムゾン、5-クロロ-7-(4-メチルピペリジン-1-イル)-6-(2,4,6-トリフルオロフェニル)-[1,2,4]トリアゾロ[1,5-a]ピリミジン、アゾキシストロビン、クレソキシムメチル、トリフロキシストロビン、ジモキシストロビン、ピラクロストロビン、キャプタン、フォルペット、フルアジナム、重炭酸カリウム、硫黄、マンゼブ、クロロタロニル、プロシミドン、イプロジオン、スピロキサミン、フルジオキソニル、メトラフェノン、フェンプロピジン、メチルジノキヤップ、ジメトモルフ、フェンプロピモルフ、シモキサニル、亜リン酸カリウム、ホセチルアルミニウム、トルクロホスメチル、フルトラニル、フェンヘキサミド、キノキシフェン、塩基性塩化銅、チオファネートメチル、ピリベンカルブ、プロパモカルブ塩酸塩、ポリオキシン、カスガマイシン、イミノクタジン、シフルフェナミド、2,3-ジメチル-6-t-ブチル-8-フルオロ-4-アセチルキノリン、2-(2-フルオロ-5-(トリフルオロメチル)フェニルチオ)-2-(3-(2-メトキシフェニル)チアゾリジン-2-リデン)アセトニトリル、プロキンアジド、4-(2,3,4-トリメトキシ-6-メチルベンゾイル)-2,5-ジクロロ-3-トリフルオロメチルピリジン、4-(2,3,4-トリメトキシ-6-メチルベンゾイル)-2-クロロ-3-トリフルオロメチル-5-メトキシピリジン、3-(2,3,4-トリメトキシ-6-メチルベンゾイル)-5-ブロモ-4-クロロ-2-メトキシピリジン及び3-(2,3,4-トリメトキシ-6-メチルベンゾイル)-5-クロロ-2-メトキシ-4-メチルピリジンから成る群から選択された少なくとも1種である請求項7に記載の組成物。

【請求項9】

(a)のカルボン酸アミド誘導体又はその塩と、(b)の殺菌性化合物との混合重量比が1:70,000~70,000:1である請求項1に記載の組成物。

【請求項10】

請求項1に記載の組成物を、有害菌類又はそれが生育する場所に施用することを特徴とする有害菌類の防除方法。

【請求項11】

請求項1に記載の(a)式(I)で表されるカルボン酸アミド誘導体又はその塩と、(b)の殺菌性化合物とを、有害菌類又はそれが生育する場所に施用することを特徴とする有害菌類の防除方法。